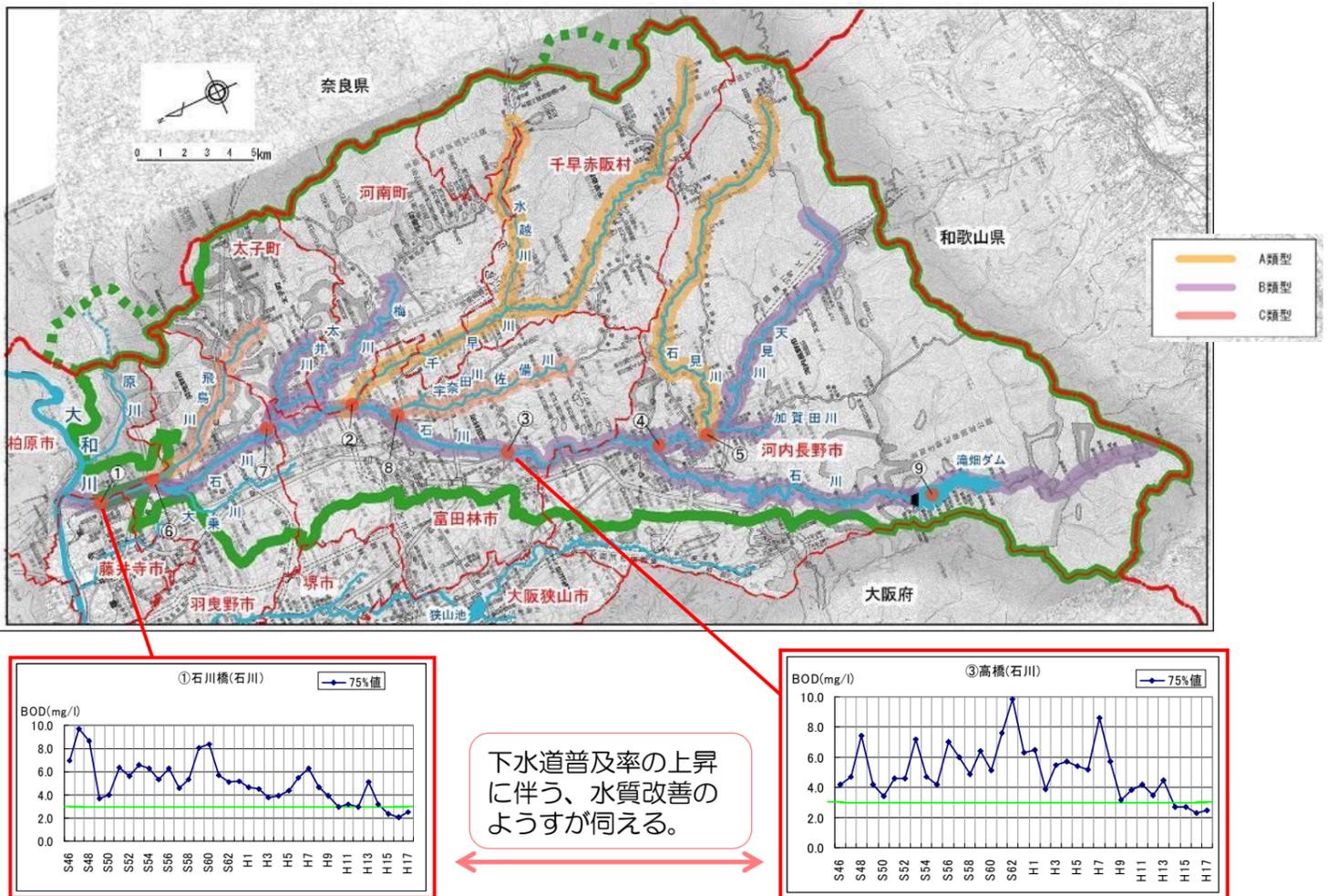
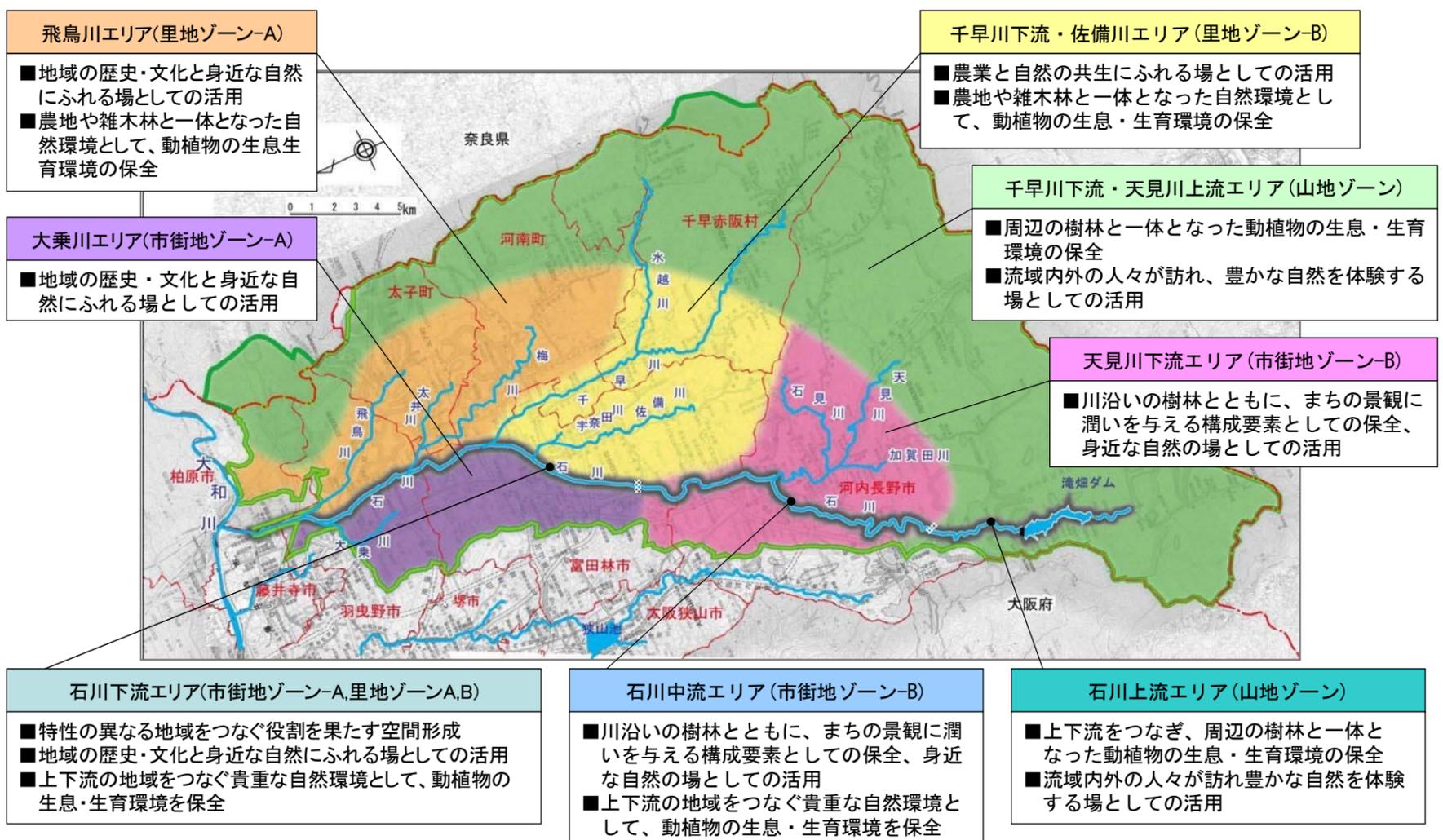


- 川は生活排水の受け皿になり、戦後、市街化の進展に伴い川の水は汚れました。
- 下水道整備により現在では環境基準を満足するほどに水質は改善されています。



- 地域の特性に配慮しながら整備を行うにあたり、良好な自然環境の保全、上下流の連続性の確保、流域の豊富な歴史・文化資源との連携、農業と自然の共生に取り組む必要があります。



関連市町村の現状と課題

現状 ⇒ 「社会情勢の変化に伴う人口減少や少子高齢化の進行」
課題 ⇒ 「まちの活力低下」

関連市町村でのとりくみ

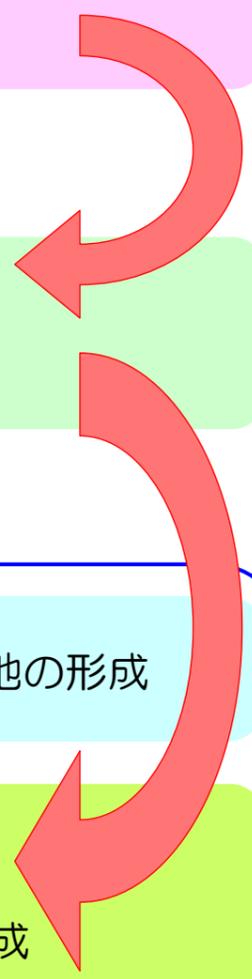
対応 ⇒ 「豊かな自然と歴史文化を活かし、魅力的な街づくり」
方向性⇒ 「人口減少の抑制、交流人口の増大」

関連市町村が期待する河川の役割

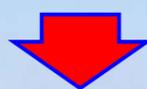
雨水排水機能の確保、水資源の有効活用による災害に強い市街地の形成

+

- ・身近なみどりや水辺に親しめる魅力ある空間
 - ・地域の歴史や文化につながる空間
- 豊かな自然とまちを結ぶ水と緑のネットワーク形成



河川改修の際に、治水、利水、環境を踏まえた
河川整備における配慮事項・めざすべき方向性を考えました。



「人」「自然」「歴史」の交流の川づくり



飛鳥川



梅川



佐備川

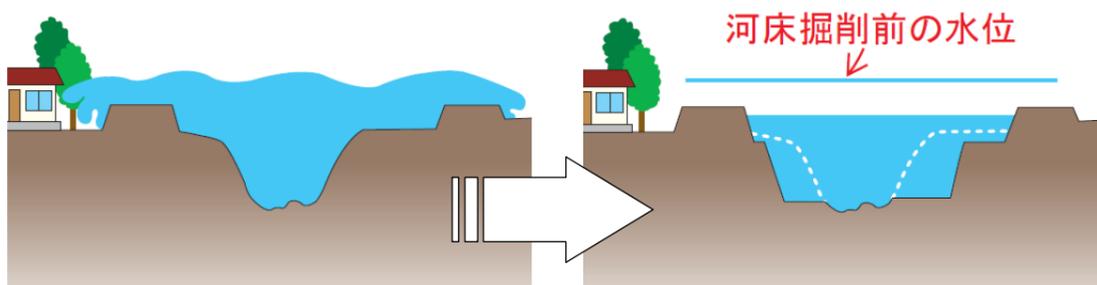


天見川

治水の当面の目標

洪水被害を少なくするため、10年に一度の大雨（おおむね50mm/h）により発生する洪水が安全に流れるよう河川の整備を行います。

河川整備の方法(イメージ)



川を拡げたり、深くすることによって、目標とする概ね50mm/hの降雨により発生する洪水が安全に流れる断面を確保します。

おおむね50mm/hとは傘をさしても、ほとんど役に立たない雨の強さ。



下水道雨水対策との連携、流出抑制対策の推進等、安全で安心なまちづくりを目指します。

利水の目標

現在の機能を維持しつつ、適正な水管理を行うため、様々な検討を進め、今後、関係自治体、利水者及び地域住民等と必要な調整に努めます。

河川環境の目標

地域の特性を踏まえつつ、河川が有している自然の復元力を活用しながら、動植物の生息・生育環境の保全に努め、流域の歴史・文化資源、住民活動との連携により、「人」「自然」「歴史」の交流の川づくりを進め、川の魅力、さらにはまちの魅力向上に努めます。